

平成22年度新市場整備協議会 会議要旨	
議 題	横浜市中心卸売市場の再編・機能強化（統合整備）方針案について
日 時	平成22年6月17日（木）午後3時から4時45分まで
開催場所	横浜市中心卸売市場本場 3階研修室
決定事項	<p>□横浜南部中央市場水産仲卸（協）を除く水産物部、青果部、鳥卵部、花き部、関連事業者については、開設者提案（本場統合、南部活用）に合意。今後、より詳細な協議、調整に入る。</p> <p>□南部市場水産仲卸組合である横浜南部中央市場水産仲卸（協）は、協議会での議論を踏まえ、総会等により開設者案を再度検討し、結果を6月末日までに開設者に回答する。</p> <p>※留意すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の市場関係事業者は、開設者の提案に合意していること ・水産卸売業者の意向が明確に示されたこと
会議要旨	<p>□青 果 部：本場統合、南部活用で合意、具体的な内容検討に入るべき。</p> <p>□鳥 卵 部：本場統合で合意、早期に施設整備を行うべき。</p> <p>□花 き 部：中央市場の看板を下ろしても、南部で引き続き事業を行いたい。</p> <p>□関連事業者：本場事業者については、本場統合で合意。南部事業者については、南部で引き続き事業を行いつつ、できれば新しい事業形態の展開を図りたい。</p> <p>□水 産 物 部：横浜南部中央市場水産仲卸（協）は、南部市場に統合すべきとの意向であるが、本日の議論を受けて、組合総会等で検討する。本場の水産仲卸組合である横浜魚市場卸（協）は、開設者案に合意。</p>

新市場整備協議会資料

平成 22 年 6 月 17 日

1 市場の状況

(1) 取扱量 (本場・南部市場合計) 単位：千トン (): 対ピーク時比率

	青 果 部	水 産 物 部	鳥 卵 部	花 き 部
平成 21 年度	498 (97%)	99 (35%)	2 (50%)	47 百万本 (56%)
過去 最高	515 (H19)	281 (S56)	4 (H3)	84 百万本 (H9)

(2) 取扱量 (本場・南部市場比較) 単位：千トン (): 取扱比率

平成 21 年度	青 果 部	水 産 物 部
本 場	376 (76%)	64 (65%)
南 部 市 場	122 (24%)	35 (35%)

(3) 販売先状況 (本場・南部市場合計) 単位：億円 (): 構成比

平成 20 年度	専門小売商	スーパー	納入業者	加工業者	飲食店ほか	合 計
青 果 部	226 (20%)	270 (23%)	281 (24%)	50 (4%)	322 (29%)	1, 149
水産物部	133 (16%)	326 (39%)	77 (9%)	48 (5%)	265 (31%)	849

(4) 事業者数 (H22. 6. 1 現在)

		本 場	南 部 市 場
卸売事業者	青 果 部	2 (本社)	2 (支社)
	水 産 物 部	2 (本社)	2 (支社)
	花 き 部	—	2
	鳥 卵 部	1	—
仲卸事業者	青 果 部	29	11
	水 産 物 部	78	29
	花 き 部	—	4
	鳥 卵 部	—	—
関 連 事 業 者		47	56
そ の 他		44	33
合 計		203	139

(5) 事業者の経営状況 (本場・南部市場合計・経常利益率)

平成20年度

	経常利益率	
	卸売事業者	仲卸事業者
青果部	0.23%	0.42%
水産物部	0.19%	△0.06%
花き部	0.11%	1.01%
鳥卵部	△2.00%	—

(6) 機能強化の動向 (品質管理の向上, 加工・配送ニーズへの対応)

青果部		水産物部	
横浜 (南部市場)	東京 (大田市場)	横浜	東京
横浜フレッシュセンター ・3～5階建て ・延床面積 14千㎡ ・平成18～19年稼動	・3階建て ・延床面積 33千㎡ ・平成23年度稼動予定	—	◎豊洲新市場 ・敷地 375千㎡ ・平成26年度稼動予定 ◎築地建替え ・平成26年度稼動予定

2 開設者の「たたき台」案

◎本場統合＋南部活用

◎理由

①今後の商圈縮小の回避

②早急な機能強化への対応の必要性

③激変回避

◎概ね5年以内